

# Daily Chronicle

# 流されゆく日々

連載 9427回

NEWS  
を読み解く



すし屋外交で支持表明(内)

## 常識と非常識の狭間で①

はざま

### 五木寛之



「憲法に一種超自然的平和主義を維持・構築する」ことに照らすと、自国や同盟の『保守』が教養主義でメリカ)の安全保障策に「正戦ではない戦争では権ははっきりと『反知性』の安全策として『積まない』とこのことにな主義』」だからだ。ゆえに政権。それゆえ解釈改憲。しかし集団的自衛権は

【集団的自衛権の深層】

松竹 伸幸著

論の中にはもう既にPKO活動などで海外行く自衛隊員もいる

分の実感を語ってきた。

りだと思う。

「ころ・と・からだ」(集英社刊)にはじまり、かなりの本も世に送ってきている。それらはすべて「一小説家のお笑い発言」のように受けとられてきた。

だから、眠る前と、目がさめた時は、つねに合掌して「ありがとうございませう」とつぶやくことになっている。

歯

それでもなお、私は必ずしも幸運だけが身の安全を支えてくれた、とは思っていない。交通事故ひとつとってみても、そう。もちろん不可抗力の不運な事故も、世の中には多い。しかし、自分で車を運転して出会う交通事故の3分の1ぐらいは、ドライバーにも責任があるような気がしている。

科以外の病院にいかない、健康診断は一切うけない。ほとんど薬はのまない。早寝早起きとは正反対の深夜型生活を続けている。食事は不規則で、暮らしのリズムはめっちゃくちゃである。

「交通事故にあわなかったから病院と縁がなくてすげえんだよ。幸運だったことを謙虚に感謝しなくちゃ」と、知人友人は、みなそう言う。私もその通りだ。

たとえば、信号が青だから安心して渡る。これはダメだ。毎度くり返しになるかもしれないが、これについては何度でも書く。

(この項つづく)

協力・文芸企画

先日、関西で講演をした際に、長尾和宏さんとはじめてご挨拶をした。長尾さんは医師である。以前、

「う方」(文藝春秋刊)という本を編集・上梓したばかりである。最近、「生き方」よりも「逝き方」のほうに人びとの関心が集ってきているようだ。

「生きかた上手」という本がベストセラーになった時代もあった。しかし、いまでは「逝き方上手」のほうがいんパクトがつよい。

長尾さんが書かれた、『「平穏死」10の条件』(ブックマン社刊)という本を興味ぶかく読ませて頂いたことがある。

最近、医療・健康分野で、大地滑りがおこっていることは、誰でも感じておられるにちがいない。

これまでの医療・栄養・健康などの常識を真逆にくつがえすような提言



PHOTO 石山 貴美子

「交通事故にあわなかったから病院と縁がなくてすげえんだよ。幸運だったことを謙虚に感謝しなくちゃ」と、知人友人は、みなそう言う。私もその通りだ。